

パートナーシップ制度検討に関する意見交換会概要

1 実施結果

- (1) 日 時：令和3年6月24日（木）午後6時30分～午後8時30分
- (2) 会 場：函館市役所8階大会議室
- (3) 内 容：パートナーシップ制度導入検討に関する意見交換
- (4) 参加者：市内在住の性的少数者当事者および家族の方 11名
パートナーシップ制度検討委員会委員 8名

2 性的少数者当事者および家族の方の主な意見〈抜粋〉

(1) 日頃感じている（これまで感じていた）困難さ

- ・例えば、市民プールに行ったときに、更衣室など男性用も女性用も使いにくい。
- ・学生時代、自分のセクシュアリティについて知られると、自分だけではなくきょうだいもいじめられるのではないかと考え、友達にも打ち明けることができなかった。男女別に分けられる保健体育の授業やセーラー服も嫌だった。学校に相談できる場所や啓発ポスターが1枚でいいので掲示してくれられないと思う。
- ・同性パートナーとどこを目指していけばいいのかわからない。
- ・同性同士で部屋を探すとき、不動産屋でまずどういう関係ですかと聞かれる。異性同士のカップルの10倍は努力しなければならない。
- ・入院や手術などの際、一緒に住んでいる同性パートナーを緊急連絡先の1番にすることはできなかった。
- ・性別移行の治療を始めようと思ったとき、函館には専門のクリニックがないので悩んだ。
- ・家族の理解がなく、家族関係が悪化した。
- ・本人確認書類の性別と見た目の性別が異なり、本人ではないと判断され困った。
- ・自分のことを家族にも友達にも話せない。
- ・公の場では話せることと話せないことを使い分けて生活している。

(2) パートナーシップ制度に期待すること

- ・パートナーシップ制度によりLGBTQフレンドリーな街になって欲しい。
- ・引っ越しや医療現場での手続きの難しさがあり、この制度により理解が広がればいいと思う。
- ・今まで性的少数者の存在を知らなかった人たちに、当事者が身近にいることを知ってもらうためのきっかけになる。
- ・制度を導入することは、市が当事者を認めてくれるということ、それがこの制度の価値だと思う。
- ・制度を十分議論し、早期に導入していただきたい。

- ・具体的なメリットのみならず，この制度があるだけで行政が存在を認めてくれたという安心感がある。
- ・この制度により性的少数者に対する認識が広まり，家族などにカミングアウトできるようになる。
- ・制度ができることによって，一人で孤独を抱えている当事者に，函館にも仲間がいると知ってもらいたい。
- ・制度ができることによって，函館は性的少数者への対応が進んでいて，住みやすそうだと外からも人が集まってくる。

(3) 制度設計について

- ・函館の中心部のみではなく，周辺地域にも制度の周知理解を広げて欲しい。田舎にも当事者はいるが，カミングアウトしにくいところがある。
- ・パートナーシップ制度で何がどのように保障されるのか，当事者にもわかるように周知して欲しい。
- ・制度を導入した後も，他の自治体の制度内容の良いところを取り入れてよりよい制度としていくことができれば良いと思う。
- ・親は同性愛に対する理解がないため，親が関わらない制度として欲しい。
- ・制度を検討する際には，報道で制度の悪用リスクという言葉があったが，当事者にとっては傷つく言葉。使う言葉に気をつけて検討してもらいたい。

(4) これからの函館の街に望むこと

- ・性別違和に悩む子ども達に寄り添ってあげられるような社会，みんな違って当たり前，子ども達が堂々と自分らしく生きていける街になって欲しい。
- ・多様なカップルや家族が認められるまちになれば素敵だなと思う。
- ・パートナーシップ制度やLGBTQという言葉が広がり，大人の意識が変わると子どもたちも住みやすくなると思う。